

子どもたちに居場所を

は「来る」ではなく「行く」だ。子どもは「行く」が主体で、大人は「来る」が主体。子どもは「行く」が主体で、大人は「来る」が主体。子どもは「行く」が主体で、大人は「来る」が主体。

は「今日は来してくれませんか」ではなく「今日は来ませんか」。子どもは「来る」が主体で、大人は「来る」が主体。子どもは「来る」が主体で、大人は「来る」が主体。

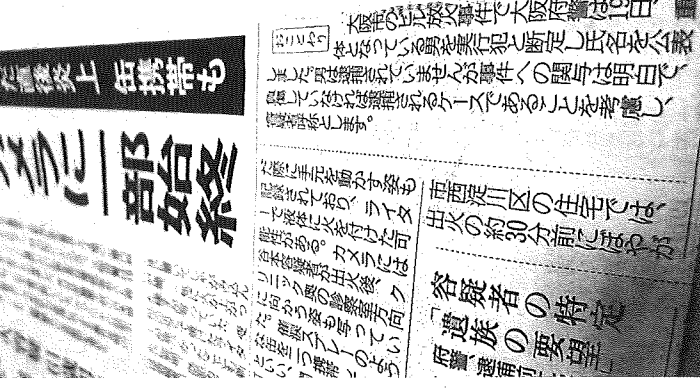
新刊紹介

一つの共通点

「東京というジャンルで」という共通点がある。子どもは「行く」が主体で、大人は「来る」が主体。子どもは「行く」が主体で、大人は「来る」が主体。

多様な文化や活動から成り立つ、多くの読者の心を捉える。子どもは「行く」が主体で、大人は「来る」が主体。子どもは「行く」が主体で、大人は「来る」が主体。

結婚の力
「小津安二郎 晩秋の屋形敷朗読」
シンガポールで敗戦



学生に「ニュースを知るメディアは何か」を尋ねると、インスタグラムやYouTubeの動画が返ってくる。確かに、はやりのアッシュヨシやおいしい店を知るには十分かもしれない。友達との会話で知っておくべき著名人の動向や、世の中の話題をいち早く知る手段としては適切かもしれない。一方で、たまに触れるマスメディアの報道については、本人が嫌がっているのに無理やり押しつけて取材したり、名前を報じたりするのは、嫌悪たどの感情が示される。

ちなみに、社会が忘れたかっていることを感じたり、返して目の下にきらめたり、ささやかな意味があるのかなど、調査報道やトピックスを知るメディアは何かを尋ねると、インスタグラムやYouTubeの動画が返ってくる。確かに、はやりのアッシュヨシやおいしい店を知るには十分かもしれない。友達との会話で知っておくべき著名人の動向や、世の中の話題をいち早く知る手段としては適切かもしれない。一方で、たまに触れるマスメディアの報道については、本人が嫌がっているのに無理やり押しつけて取材したり、名前を報じたりするのは、嫌悪たどの感情が示される。

匿名発表・報道

事件は大阪(梅田)駅か、ほぼ近い雑居ビルに入る心療内科クリニックで、2021年12月17日午前5時30分、容疑者を含む2人が亡くなる惨事であった(他に重傷1人)。近年は、この種の犯罪性が疑われる

事件のみならず、事故や自然災害の場合でも、犠牲者や被害者のプライバシーを考慮して取材を制限したり、報道で事実関係の一部を秘匿したりする傾向が強まっている。警察や消防等の公的機関においても、氏名等の発表を行わないケースが増えている。本欄でも折に触れ扱ってきたが、05年のJR西日本の福知山線事故では、そうした中で、19年の京

事件では、事件特性を理由として警察は身元の発表をしていないし、報道も原則匿名が続いている。一方で01年の新宿歌舞伎町の雑居ビル火災事件では、火元が風俗店であったことから、店名を匿名にして犠牲者名を報じる社、扱いを避ける社、双方ともに匿名で報じる社など、バラバラであった。そうした中で、19年の京

主体的な判断で報道を 当事者の心情に配慮も

一部犠牲者の氏名は未公表のまま。13年のアルシエリアでの人質事件でも政府・企業とも氏名発表を拒んだ。最近の事件では、16年の相模原事件、17年の陸間

事件では、事件特性を理由として警察は身元の発表をしていないし、報道も原則匿名が続いている。一方で01年の新宿歌舞伎町の雑居ビル火災事件では、火元が風俗店であったことから、店名を匿名にして犠牲者名を報じる社、扱いを避ける社、双方ともに匿名で報じる社など、バラバラであった。そうした中で、19年の京

あたる際は節度を保ち、遺族や関係者の皆さんに配慮します(朝日新聞12月20日朝刊社説面)との文を、氏名掲載後に付すなどして報道している。加害者の報道についても、従来は責任能力がなく刑事責任が問われない可能性のある場合など、本人特定を行わないことが一般的で、その一例が精神耗弱であった。それからすると、今回は該当する可能性を否定できない中、警察が逮捕状請求前におえて容疑者名を公表したことを受け、一

番組とは異なります。この「配慮」を行ってきた。警察発表への依頼。これらの過去事例と比較すると、今回の大阪事件は少し構相が異なるものではない。警察は当初より、犠牲者の身元が判明次第匿名を公表した。報道でも「事件・事故報道では、一人一人の方の命が奪われた事実の重さを伝えることが報道機関の責務と考え、原則、実名を報じます。取材に

な判断というよりは他方基準である。そして今回も、警察が捜査上の都合等から発表をしたことには従い、匿名報道をしたという点では、典型的な発表ジャーナリズムといえる。警察判断に依頼するのではなく、ジャーナリスト自身が自分の責任でどうあるべきかを考えることによつてこそ、読者・視聴者の信頼を築くことができよう。ネット上の情報とは違つ、プロとしてのジャーナリズム活動の意味があるだろう。

部の報道機関は匿名報道をした(捜査1課長が「被害者・遺族が被害者の早期特定を望んでいる。重大事案も鑑みて公表した」と説明したとされる)。在京紙では、朝日読売日経が19日朝刊段階で実名、毎日、産経、東京は翌20日段階から顔写真・実名に切り替えた(本紙も20日から実名)。もともと報道機関が匿名報道するタイミングは、警察の逮捕という公権力行使を判断基準にしており、その意味で自律的

な判断というよりは他方基準である。そして今回も、警察が捜査上の都合等から発表をしたことには従い、匿名報道をしたという点では、典型的な発表ジャーナリズムといえる。警察判断に依頼するのではなく、ジャーナリスト自身が自分の責任でどうあるべきかを考えることによつてこそ、読者・視聴者の信頼を築くことができよう。ネット上の情報とは違つ、プロとしてのジャーナリズム活動の意味があるだろう。

部は報道機関は匿名報道をした(捜査1課長が「被害者・遺族が被害者の早期特定を望んでいる。重大事案も鑑みて公表した」と説明したとされる)。在京紙では、朝日読売日経が19日朝刊段階で実名、毎日、産経、東京は翌20日段階から顔写真・実名に切り替えた(本紙も20日から実名)。もともと報道機関が匿名報道するタイミングは、警察の逮捕という公権力行使を判断基準にしており、その意味で自律的

「薬物報道ガイドライン」や、LCRF法連合会の「LCRF報道ガイドライン」が知られている。また危険

地取材に関しては以前からの国際的な記者組織であるICJ(ジャーナリスト保護委員会)策定の「危険地取材ガイドライン」が存在し、戦争取材等の美学的な手引きとして活用されてきた。同委員会は「新型コロナウイルス取材の手引き」も発表している。関連して、惨事・事故に伴うストロスを取材・報道関係者が受けた場合の研究書も出されている(報道人ストロス研究会編『ジャーナリストの惨事ストロス』)。今回の大阪事件に際しても、日本トラウマティック・ストロス学会と犯罪被害者支援委員会の連名で声明が発せられている。直接的には被害者は現場に居合わせた者や救護者向けのものではあるが、同様に被害者・被災現場を取材し報道するジャーナリストが、当事者・関係者のメンタルヘルスを十分に理解していないはならないとはいつまでもない。主体的な取材報道ガイドラインの策定に向け、できることからしていきたい。(専修大学教授・言論法(第2土曜掲載))

メディア時評

(1月)

山田 健太

今年ももう充分か、あつた来年仕切り、昨年来に開いた、そろそろ仕切り直さなければならぬ、実は隣に隣ついで、野り風にならない、倒れないように、マス生活はもう、深くなるほつれ、下がる口角、それでいいわけ、薄くして、上げたい、マスを取って、この島はもうすぐ、いくつもの選択の、私たちが豊饒の選、扱れはいいわけ、受け継ぎ残してい、この島の手を大切、まだ知られてい

◇第1
結婚の力
「小津安二郎 晩秋の屋形敷朗読」
シンガポールで敗戦